

足利風 -ashikaga-fu

2021
8月号
Vol.75



水彩画：川島直人

足利市民活動センター

開館時間：平日 10:00～19:00

休館日：土・日・祝日・第3月曜日

〒326-0052

栃木県足利市相生町1-1

足利市生涯学習センター3F

TEL 0284 (44) 7311

FAX 0284 (44) 7312

Mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- *特集!
「地域で・・・生きる！」
- * TOPICS
「鳥につばさのあるが
ごとく 人間に労働あり」
- * 私のボランティアことはじめ
「てんでんこ (上)
柏瀬光寿」
- * サークル紹介
「SDGs足利」
- * INFORMATION

特集！ 「地域で・・・生きる！」

「武器は足利らしさ！」と、地域の独自性をかざしての地域間競争への参入の意気込みを語る青年たちに逢った。かつて、全国各地の青年たちのまちづくりをお手伝いしたことがある。当時から3点セットは変わらない～①独自の市場を開拓して価格競争に巻き込まれない ②理想の顧客をつかむ ③魅力溢れるストーリーを創る。

「科学や技術は進歩するけれども人間は進歩などしない」と、評論家・小林秀雄は言っている。確かに、若いということが、ルールも知らずにゲームに飛び込むようなものであることぐらい、身に沁みて知ってはいる・・・が、私自身、相も変わらず懲りずに、若者たちの青くささに付き合ってみたい気持ちは強い。名言がある～自分で課題を立て、自分で調べ、自分で考える。自主も・自立も・自治も・・・そこからしか始まらない。



まちづくりの鉄則は“不易流行”と言われている。時代は移り変わるが、“変えてはいけないもの”と“変えなければならぬもの”が・・・ある。時代は流れる。そして、変わらない

街は・・・ない。しかし、問題なのは、「その時代を生きている市民ひとり一人が、どのように街の将来像を描いて、主体的に変えていくのか？」なのである。“歴史と文化”はその蓄積なのだ。その時代を生きている市民ひとり一人が、生き活きと、その街で生きていけるような“街の変革”を祈り願っているのは私一人だけではない。

～こよなく晴れた 青空を 悲しと思う せつなさよ～・・・“長崎の鐘”である。作曲した古関裕而は、被爆者や特攻などで散華した若者たちへのレクイエム（鎮魂歌）だとしている。昔、若い頃、東京帝国ホテルで出版記念会の司会のお手伝いをした。藤山一郎さんが“長崎の鐘”を歌った。宴が終わってすぐ藤山一郎さんが私に駆け寄って来て、手を握った。嬉しかった。若者への励ましの言葉とともに、その手の温もりを今でも忘れない。

(M生)

* TOPICS *

「鳥につばさのあるがごとく 人間に労働あり」(川田 昇・色紙より)

令和3年4月16日(金)午後、足利市民活動センターに於いて、“まちの縁側”(本「ぶどう畑の笑顔(川田昇)」・案内人：石川博右さん)が参加者多数で開かれました。・・・昭和43年小さなバラック建ての小屋からこころみ学園の歩みが始まりました。・・・という一行から始まる感動の実践物語は、福祉という分野を超えて私たちの胸に迫るものがあります。現在は、ココファーム・ワイナリーとして全国的な知名度はありますが、こころみ学園の草創期の悪戦苦闘ぶりや子どもたちへ降り注ぐ尊い愛情は時代・分野を超えて語り継がれることでしょう。



遅咲きの桜吹雪の中で一人ひとりの心に桜の花が一輪ずつ咲いた午後でした。

私のボランティアことはじめ

「てんでんこ（上）」

柏瀬眼科院長 柏瀬光寿

「津波が来たら各自がてんでんばらばらに高台に逃げることで、結果として多くの人達が助かる」。2011年3月11日の東日本大震災でこれを守り、児童・生徒562人が自らの命を守った「釜石の奇跡」で日本中に知れ渡るようになった言葉が、「津波てんでんこ」である。



私は2000年から20年間、年末にインドでの医療活動を行っている。その中で「なぜやり続けるのか?」と尋ねられることが多くあったが、はっきりとした理由が思い当たらず、いつも「散歩です」とか「趣味です」と答えていた。しかしついにそれが分った。それは「アイキャンプてんでんこ」だった。

私が所属するアジア眼科医療協力会（AOCA）は、1972年にネパールで医療活動を始めた。世界最貧国のひとつである同国は、ヒマラヤを中心とした観光業が主な収入源で、外貨を獲得する産業はほとんど無い。当時、国民1200万人に対し眼科医は50人にも満たず、しかもその多くが首都カトマンズの病院に集中していたため、地方で眼科医療を受けることは困難であった。そこで AOCA はネパールにおける眼科医療の底上げを図るために、日本人眼科医を派遣し手術技術を伝授するとともに医療機器を提供、さらに医療過疎地域でアイキャンプを開催した。アイキャンプとは学校や公共施設に簡易的な診察室や手術室を設けて臨時の病院とし、無料で診察や白内障手術を行うものである。

我々は2000年からインド北部ダラムサラでもアイキャンプを始めた。かの地は、1959年にインドに亡命したチベット仏教の最高指導者であるダライラマ14世と亡命チベット人（現在は2世、3世が多い）が多く住む街である。インド人とチベット人の関係は決して良好とは言えず、カースト制度、言語や経済的な問題が存在していた。そういうこともあり、目を患ってもインド人眼科医による診療を受けることに躊躇するチベット人は少なくなかった。その状況を目の当たりにし憂いを抱いた京都の NGO から我々の AOCA に共同プロジェクトの依頼があり実施に至った。（10月号に続く）

サークル紹介

★SDGs 足利 「誰ひとりも取り残さない」

“誰ひとりも取り残さない”という理念のもと、2015年に国連で採択された「SDGs」（Sustainable Development Goals）“持続可能な開発目標”。17項目16



9の具体的な目標を、2030年までに達成することをめざしています。足利という地域においても、団体・個人・企業それぞれが「SDGs」につながるアクションを起こして、足利という地域を楽しく生きがいのある街にしてほしい、という願いを持っています。

* INFORMATION *

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。

★令和3年8月7日(土) 13:00～15:00

* 本 : 「まちづくりの実践」(田村明)

* 案内人 : 堀越 悠斗さん

★令和3年9月17日(金) 14:00～16:00

* 本 : 「ダウンタウンに時は流れて」(多田富雄)

* 案内人 : 石川 博右さん

■参加費 : 無料

■会場/問い合わせ : 足利市民活動センター ☎0284-44-7311

☆茶論

★令和3年8月28日(土) 13:00～15:00

* 語り部 : 清水 弘一 さん

* テーマ : 「足利の俳人列伝」～足利の俳句界を彩った人々の足跡を辿る～
足利は文化都市として、各種文芸レベルも評価の高いものがあります。俳句の世界においても、例えば、久保田豊秋先生、荻原枯石先生、中川岱子先生などの懐かしいお名前が浮かびます。ご自身も俳句をたしなみ、造詣の深い清水弘一さんに、足利の俳句界の先達への思いを語っていただきます。楽しい茶論(サロン)になると思います。ぜひ、お気軽にご参加ください。

■参加費 : 無料

■会場/問い合わせ : 足利市民活動センター ☎0284-44-7311

☆企画展(交流コーナー)

* 8月 2日(月)～ 8月12日(木) ひょうたん置き物飾り展

* 8月17日(火)～ 8月26日(木) 子どものえがお展

* 8月30日(月)～ 9月 9日(木) 陶のやきもの展

* 9月13日(月)～ 9月22日(水) 日本画名品展

* 9月27日(月)～10月 7日(木) 光あふれる風景写真展

※展示時間・・・10:00～19:00 ただし最終日は15:00まで
(土・日・祝日・8/16・9/21は休館日)

☆相談室&講座

* 相談室 = 毎月第2・第4水曜 14:00～16:00

* 講座 = 毎月1回

※詳しくは、別紙参照

編集後記

東日本大震災から十年の月日が過ぎたというのに、京都に母親と二人で避難した女子小学生の「福島ごと引っ越したい!」という叫びが、私の脳裏から離れない。“テーブルが汚れていたらそっと拭き取るような”支援をし続けている同志も同じ気持ちだろう。「文明が進めば進むほど天然の暴威による災害がその劇烈の度を増す」と言った寺田寅彦の言葉が胸に痛い。(カサブランカ)